



今を大切に 高齢ろう者の絆を深め、生きがいを語り合おう 仰ぎ見る立山連峰、きときとの越中の地で

第36回全国ろうあ高齢者大会

2024年9月26日(木)～29日(日)

主催:(一財)全日本ろうあ連盟高齢部

主管:(福)富山県聴覚障害者協会

2024年9月28日発行

速報
第13号



記念講演

「手話の魅力 ～人生の先輩から頂いた宝物～」

講師:野崎 誠氏



野崎氏の思う手話の魅力

- 1 手話でいろいろな世界を知る。
- 2 自分の手話を知る。もっといい手話を取り込めないか。相手や場所に合わせた使い分け。
- 3 手話に誇りを持つ。先輩から受け継いだ宝物をさらに受け継いで行く。

「手話の魅力 ～人生の先輩から頂いた宝物～」をテーマに野崎 誠氏から講演いただきました。

野崎氏はろうの両親の元に生まれ手話が第一言語です。ろう学校時代、手話で話す生徒とキュードスピーチで話す生徒の通訳をしていた自分の行動に違和感がしたと話します。

ある時、米内山氏の芝居を見に行きました。それまで「ろう者には芝居は合わない」と思っていたが、その場から立ち上がれないほどの衝撃を受けたそう。そこから自身の活動「しゅわえもん」に繋がります。

そこではろう学校の生徒たちが中心となり、絵本手話語りなどの活動を行っています。もっと手話を身につける機会を増やし、きこえる人と対等にすることが必要だとお話しされました。

参加者の感想

- ・とても面白かった。高齢者から見ても野崎氏の手話表現は分かりやすかったと思う。
- ・今回、野崎氏の生まれ故郷である富山県で講演出来て、感慨深いものがあったのではないかな?と思いました。



アトラクション

「この手が僕らの歌声になる」

手話パフォーマンス きいろぐみ



“小さな世界”と“幸せなら手をたたこう”、“アンダーザシー”、きいろぐみオリジナルソング“この手で歌おう～指文字の歌”や富山を思わせる自然の四季の映像をバックに手話群舞を披露していただきました。オリジナルソングでは動物、季節、乗り物の3つの単語を参加者の皆さんと一緒に用いて「あ」～「ん」の五十音の指文字と12の手話表現を楽しみました。子供も楽しく歌える手話ソングで会場の皆さんと一緒に歌いました。

また、メンバーの1人、いくみさんがスピーチで「20歳で失聴し、それまでの生活では聴者としてしか関わったことがなかったが地域のろう者と出会い、手話と出会ってろう者として生きていくことにした。ふたつの世界を経験出来て私は幸せです！！」ととても前向きなコメントをされたのが印象に残りました。

また「会場のろうの先輩方は、様々な苦勞をしてきたと思う。今は差別を受けることは少ないと思うがまだまだ経験が浅いのでみなさんいろいろ教えてください」とお願いをされていました。

参加者の感想

- 会場と一体になっての手話パフォーマンス「指文字の歌」は会場の皆さんも一生懸命手話をしながらとても楽しそうでした。大自然の映像をバックに、流れる曲に合わせ、手話だけで表現された様子は感動的でした。
- ろう者もそれぞれ環境が異なります。今まで関わってきた人はろう学校に通っていた方が多いのですが、きいろぐみのみなさんは途中で失聴された方など似たような環境が多い人が集まられていると思いました。それぞれの良さがあるなど楽しく観させていただきました。

